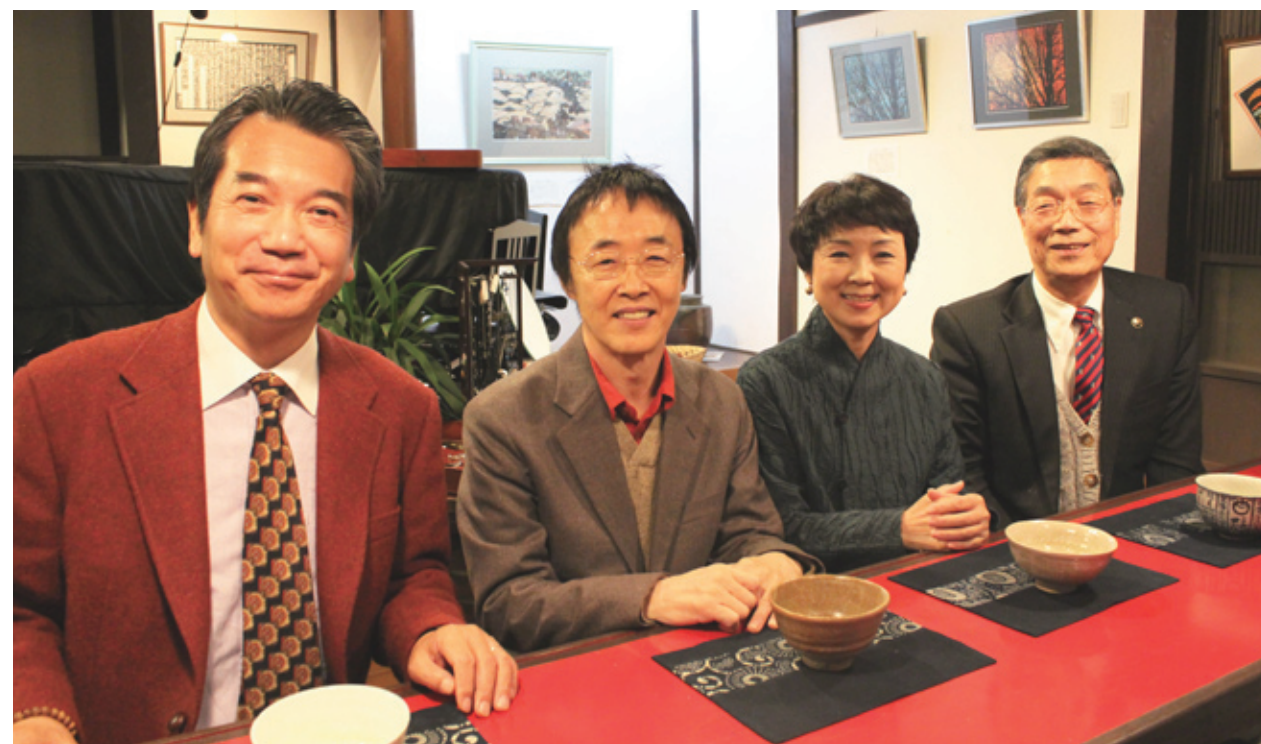




町家ギャラリー「るり」が誕生したのは、平成16年。代々受け継がれてきた町家を酒井るい子さん（73）が「だれでも気軽に訪れることのできる場所に」とギャラリースペースに改修しました。絵画や手仕事の魅力が詰まった小物が置かれ、うるし塗のカウンターではお茶を楽しむことができます。また、度々コンサートも行われ賑わいを見せています。酒井さんは、「どこか懐かしさの漂う町家のよさを肌で感じてもらいたいですね。古いものを残すことによって生まれる価値もあることを少しでも多くの方に知っていただければ」と話します。

写真は左から酒井るい子さん（73）、上田範子さん（68）。近所の仲よし同志でギャラリーを切り盛りしています



左から村上信夫さん、ダ・カーポ まさとしさん・広子さん、辻市長

村上 本日は、デビュー40年の節目を迎えた夫婦デュオダ・カーポのお二人に、夫婦円満の秘けつや歌手生活の中で感じた歌の力についての話をお聞かせいただきたいと思っています。また、「ありがとう」がもつ言葉の魅力についても語り合いたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。 **まさとし・広子** よろしくお願います。 **市長** 今回は、柏原にある町家ギャラリー「るり」さんに、座談会の場を提供していただきました。柏原のまちは、今なお城下町の風情を色濃く残しており、この景観を守るための取り組みもなされてきました。まさとしさん、このまちの第一印象をお聞かせください。 **まさとし** 市街地を取り囲むように山があって、それらが、町家が点在するまちの雰囲気とうまく調和していますね。これぞ城下町のロマンって感じですね。 **市長** このまちには、柏原藩の陣屋跡や大正期に建てられた大

「るり」城下町の風情を醸すまち柏原の魅力
「ロマン溢れる町並みが素晴らしい」



「るり」自慢の抹茶をいただきながら、座談会はスタートしました

手会館など、古くからの町並みが残っています。また、町家を改築したイタリアンレストランや「るり」さんのようなギャラリーもあります。景観を維持しながら、まちの特徴を生かしたまちづくりが進められているんですよ。 **村上** 何でもかんでも新しいものをつくるのではなく、古くからのものを生かしながら後世に伝えていくという取り組みですね。こういう場所にいと、代々受け継がれてきたものの価値や重みを肌で感じることができそうです。 **市長** 中山間地域ですから、市全体が山と隣合わせですよ。 **まさとし** みなさんご存じの歌「ふるさと」の歌詞の中で、『山は青きふるさと 水は清きふるさと』という歌詞がありますが、ふるさととはそういう所であって欲しいですね。 **広子** ふるさとを感じられるまちって素敵。 **村上** 丹波市は今、都会から移り住む人たちが結構増えています。都会にはない豊かな自然がふるさとの風情を醸し出し、それが人々を惹きつけているのかもしれませんね。

「スペシャル座談会」

ありがとうの種をまこう



歌手生活40周年を迎えた夫婦デュオダ・カーポ。家族で支え合いながら妻・広子さんの闘病生活を乗り越え、今なお優しく柔らかなハーモニーを奏で続けています。そんなダ・カーポのお二人に元NHKアナウンサー村上信夫さん、辻市長を交え、ダ・カーポの歩みを振り返りながら、「歌」や「言葉」のもつ力について語り合います。



町家ギャラリー「るり」

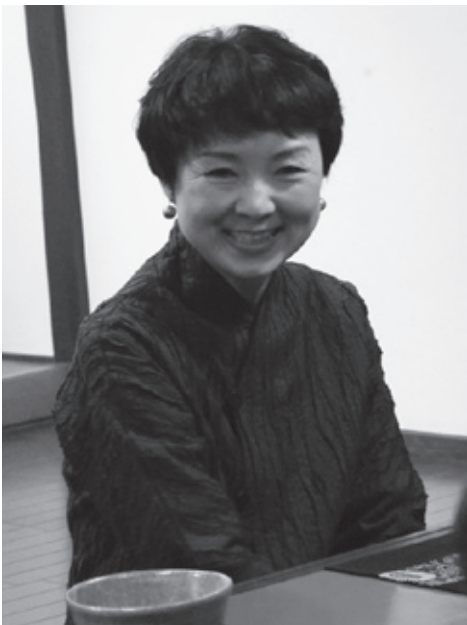
スペシャルゲスト
ダ・カーポ

「プロフィール」

いつまでも初心を忘れないようにという意味でダ・カーポと名付け1973年デビュー。翌年「結婚するって本当ですか」が大ヒット。「野に咲く花のように」「宗谷岬」など数々のヒット曲の他、TVの主題歌、童謡などで幅広く活躍。昨年6月には、デビュー40周年を記念して「とっておきの贈りもの」「ザ・ベスト」などをリリース。



座談会は、築100年の町家を改築して生まれた町家ギャラリー「るり」で行われました



Sakakibara Hiroko

榎原 広子

栃木県佐野市出身
ダ・カーポのメンバーとして、作詞、ヴォーカルを担当。
96年には、変形性股関節症の治療のため、半年間、活動を休止し、復帰後には闘病記を出版。
好きな食べ物は「なすのしぎ焼き」。
好きな言葉は「いいことだけ考えよう」。



Fujii Juzo

辻 重五郎

1939年生まれ。元中学校教諭。元氷上郡教育委員会教育長。
平成16年に初代丹波市長に就任し、現在3期目。無所属。好きな言葉は「人生二度なし」。

scene 2 二人の出会い・父への説得 歌で生きていく

村上 ふるさとは、人生の初心というべきものを思い出させてくれる場所でもあります。また、ダ・カーポの名前も、初心を忘れないようにという意味が込められているんですよね。

広子 そうなんです。「ダ・カーポ」(D・C)というのは、演奏記号の一種で、譜面にこの記号が出てくると曲の冒頭に戻らなきゃいけないんです。

「いつでもスタート地点に立ち帰って、初心を忘れないようにしたい」っていう思いが込められています。

村上 「初心忘るべからず」とは言うけれど、だんだん自分の名前が売れたり、地位がついたりしてくると初心を置いてきぼりにしてしまうこともありま

す。それを名前にするなんて素晴らしいですね。

何ですか。

市長 私は、「誠実に生きる」ということが人間にとって一番大事なことだと思うんです。私は教諭でしたから、生徒を教育するにも、愛情を注ぐにも、根っこには「誠実さ」が求められます。私の真理みたいなものです。それは市長になった今でも大切にしていることですね。

村上 なるほど、さすが教育者ですね。まさとしさんはいかがですか。

まさとし 「今歌うべき歌」を大切にすることですね。昔ヒ

ットした曲を歌うのもよいのですが、人生を送る中で気付いた

新たな発見や時々世相を歌に反映させたいと思っているんです。そういう思いで、フオークソングとともにこれからも歌をつくり続けたいですね。

市長 人生の中に常に「歌」があり、しかも夫婦でがんばってこられた。多くのご苦労があったのではないですか。

広子 実は、父がスーパーマーケットを営んでいまして、私は子どもの頃からその跡継ぎとして育ってきたんです。そして、横浜のスーパーへ修業に出され

ていた時に、たまたま夫のやっているフオークグループに出会

って、それ以降、音楽にのめり込んじゃったんですね。それで、私が父に「音楽をやりたい」って言ったら、見事に勘当されてしまつて。当時はまだ結婚していなかったけれど、グループの代表として、彼と一緒に父のもとへ説得に行ってくれました。

村上 その時、お父さんに言われたことは。

広子 「音楽なんて、世の中のためにならない」って。やはり、父も戦争を体験して、食うや食わすの生活というものを知って

いますし、戦後の混乱期も生き抜いてきた人です。父に言わせれば、音楽は、必要な物の順番でいうと、うんと下の方だったと思うんです。「お百姓さんは、お米をつくることにも、それを売ることに年中一生懸命ががんばっている。人生とはそういうもの。音楽なんて社会のためになつていいのか」って言われたのを昨日のように記憶しています。

村上 それは、「結婚するって本当ですか」がヒットした後も同じ状況だったのですか。

広子 彼と結婚することが決まった時に、父が「広子は音楽と結婚するんだ」と言っていましたので、一応はその時点で認めてくれていたようです。でも、父の言葉がずっと心に残っていて、音楽が社会の役に立たないはずはないっていう思いを抱きながら活動を続けてきました。

まさとし 二人とも、「音楽にだつて絶対に何か人を動かす大きな力があるんだ」って信じていたんですけど、当時はうまく伝えることができなかったんです。

scene 3 信じ続けた「歌の力」

被災者から届いた一通のメール

村上 前回、座談会に参加してくれた歌手のクミコさんは、東日本大震災の被災地で歌ったことをきっかけに、歌がもつ力の大きさに驚かされたと話していましたけれど、二人には何か感じるものはありますか。

広子 震災直後は、さすがに無力感を味わいました。「音楽は人の役に立つんだろうか」って自問自答しましたね。

まさとし でも、震災間もない頃に、事務所にメールが送られて来たんです。『野に咲く花の

ように』を東北に歌いに来てほしい」って。ガレキの下からカセットデッキが出てきて、それを再生したらちようど「野に咲く花のように」が流れてきたらしいんです。『トンネル抜ければ夏の海』『時にはつらい人生も雨のちくもりでまた晴れる』っていう歌詞が聞こえてきたって。

広子 メールには、「何回も聞いて涙をいっぱい流したら、少し元気になってきました」って書かれていましたね。



Sakakibara Masatoshi

榎原まさとし

神奈川県横浜市出身
ダ・カーポのメンバーとして、作詞・作曲、ヴォーカルを担当。
妻・広子さんのために朝食をつくることが日課。
好きな食べ物は「おろしそば」。
好きな言葉は「二人で一人前」。



Murakami Nobuo

村上 信夫

1953年京都生まれ。元NHKエグゼクティブアナウンサー。2001年から11年にわたり、NHKのラジオの「声」として活躍。現在は、全国を講演で回り「嬉しい言葉の種まき」をしている。また、昨年度から丹波市エグゼクティブアドバイザーに就任し、丹波市の魅力の発信に努めている。

身近な存在にこそ「ありがとう」の一言を

村上 広子さんは、以前、股関節の病気で5カ月もの間入院をされたそうですが、夫婦や家族の間に何か変化はありましたか。

広子 ええ。一人娘がいるのですが、当時まだ中学2年生だったんです。入院で長期間家を離れることにとても不安がありました。娘は思春期真っただ中でしたから、父親を毛嫌いしちゃったんでしょうっていう思いがあったんですね。ところがね、私がいな



い間、二人で協力して何でもやってくれました。抱いていた不安が何だったんだらうってぐらいに二人仲よくね。
まさとし 炊事、洗濯、掃除なんでもしましたね。環境の変化が私や娘を変えてくれました。広子は歌手活動のほかにも、主婦として、毎日これだけの家事をこなしていたんだと改めて知って、自然と「ありがとう」っていう感謝の気持ちが生まりましたね。だから、広子が不在の間、自然と一致団結してがんばろうみたいな空気になりました。また、娘との距離もぐっと近くなったし、今となればよい機会だったのかもしれない。

村上 その時は、夫婦の間はかなり「あ



りがとう」っていう言葉を交わし合っただんですか。

広子 そうですね。感謝する機会が多くなった分、「ありがとう」の数が増えましたよね。やっぱり、一つ屋根の下に暮らす一番身近な存在にこそ「ありがとう」を伝えることが大切なのではないでしょうか。

村上 市長も以前、自身が病気をされた経験があると伺いましたが。

市長 丹波市が発足して、市長に初当選して間もない頃に、心臓を患い2カ月もの間入院をしました。その間、妻が病院に寝泊まりしながら献身的に支えてくれましたね。

まさとし ちゃんとありがとうは言いましたか。

市長 もちろん心の中では本当に感謝の思いでいっぱいでした。でも、妻にはなかなか素直に言えないものです。でも、この間、金婚式をしたのですが…。

広子 結婚50年。市長おめでとうございます。

市長 ありがとうございます。以前は、神戸に20年間単身赴任をしていたので、家に帰るのも週末だけ。その間、妻が一生懸命に子育てをやってくださいました。それで、金婚式での記念撮影の時に、「ありがとう」って言っ



たんです。改まって言ったのはじめてじゃないでしょうか。

村上 市長、やるじゃないですか。座談会のタイトルは、『50年目にしてはじめて言ったありがとう』で決まりですね。

市長 ご冗談を(笑)。でも、伝えてよかったですよ。

scene 5 「ありがとう」の輪を全国に発信

ありがとうを伝えることから始めよう

市長 やつぱり、心で思っているだけじゃなく、口に出して伝えるって大切な事ですね。相手にもしっかりと伝わりますし。

村上 言葉にしてはじめて伝わることも多いですからね。

広子 私たちも50年経って、「ありがとう」と言える夫婦でいたいですね。
まさひろ グループ結成40年、結婚33年。

広子 まだまだ道のりは長いですね。
村上 言葉って、そうやって口にする

ことによつて、「あつ、そうぞうだ。今私は感謝している。だからありがとうって言うてるんだ」「おかげさまで言うことによつて「自分」一人で生きてないんだ」ってことに気付くのでしようね。でもね、この前も学生さんと話をしていて、『おかげさま』って君たち知ってる?」って聞いたたら、「聞いたことない」って言うんですね。

まさとし えつ、そうなんですか。
村上 やつぱりその「ありがとう」とか「おかげさま」とか、そういう言葉

を口にしないと忘れてしまふし、子どもたちにも伝わっていかないと思っんですよ。

まさとし 言葉には言葉魂が宿っていて、声に出して言わないと状況は変わらないし、次にもつながっていいかないですね。

村上 そう。「ありがとう」って言うことによつて、60兆の細胞が認識してくれるわけです。脳は、人間が口にした言葉によつてうれしい気持ちを認識するっていう説もあるくらいで、やっぱり伝えることが大切なのですね。

広子 私たちもこれから実践したいと思います。今日はいいい話を聞くことができました。

市長 今年も「あのとき言えなかったありがとう」をテーマに、全国公募でありがとうメッセージを募集したんですね。3月9日(日)の「サンキュー」の日には、入賞・入選作品を発表する「丹の里ありがとう大賞」表彰式が行われます。村上さんには審査委員長として今年もお世話になります。

村上 今年も全国からたくさん「ありがとう」が寄せられたようですね。このたくさん「ありがとう」の種をここ丹波市から全国へ届け、あちらこちらでやさしい花を咲かせる日がやって来ることを願って、私もお手伝いをさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

全国公募「丹の里ありがとう大賞」表彰式
さとう宗幸&村上信夫スペシャルトーク

入場無料

平成 26 年 3 月 9 日 (日)
ライフピアいちじま

開場 午後 1 時
開演 午後 1 時 30 分～

【第 1 部】全国公募「丹の里
ありがとう大賞」表彰式

「あのとき言えなかった ありがとう」をテーマに、全国から寄せられたメッセージの中から入賞・入選作品を発表。

【第 2 部】さとう宗幸&村上信夫
スペシャルトーク

東日本大震災で、被災を経験。以降、精力的に被災者支援活動を行ってきたさとう宗幸さんと村上信夫さんとのスペシャルトーク。



ゲスト
さとう宗幸

【プロフィール】

昭和 24 年生。宮城県出身。同 53 年「青葉城恋唄」でデビューし、130 万枚のミリオンセラーを記録。その後、TBS 金曜ドラマ「2 年 B 組仙八先生」や NHK 大河ドラマ「独眼竜政宗」に出演するなど、役者としても活躍。現在、地元テレビ局 (NTV 系・ミヤギテレビ)「OH! バンデス」に出演し、夕方の顔として老若男女から人気を博している。

◎ 生涯学習センター (氷上住民センター内)
☎ 82 - 0409